

森 公一

MORI Koichi

教授



[現在の専門分野]

メディアアート

[現在の研究テーマ]

メディアアート研究

[学 位] 教育学修士 (大阪教育大学)

[所属学会] 日本映像学会

■ 主要研究実績

(作品) AV KALEIDOSCOPE 映像インスタレーション 大阪空港ロビー	1987年
Cosmology of Kyoto 京都千年物語 CD-ROM作品 ヤノ電器出版	1994年
TRIPITAKA 玄奘三蔵求法の旅 CD-ROM作品 PD出版	1999年
sitting-in-the-closet-Primakov CD-ROM作品	1999年
TRAVELLING メディアアート作品 ENSAD (パリ)	2004年
Horizontal/Vertical メディアアート作品 京都芸術センター	2007年
hydrosphere メディアアート作品 深圳画院 (中国)	2008年
光・音・脳 メディアアート作品 京都国立近代美術館	2010年

■ 研究・社会活動等

マルチメディアコンテンツOSAKAグランプリ審査委員会 委員	1998年
大阪市インターネット博覧会企画委員会 委員	2000年
滋賀県中小企業IT推進ネットワーク戦略研究会 委員	2001年
KANSAIブロードバンド活用術企画コンペ 審査委員長	2002年
NPO法人クロスカルチャーメディア 理事長	2010年～

■ 学内外研究費による主要研究活動歴

科学研究費補助金 (基礎研究(B)) 総合的感性教育の可能性の探求およびイメージ創造を支援する教育システムの開発 (研究分担者)	2000年～2002年
科学研究費補助金 (基礎研究(B)) イメージ・感性開発のためのメディア活用型総合学習パッケージの開発 (研究分担者)	2002年～2004年
科学研究費補助金 (基礎研究(C)) メディアアートにおけるインタラクティブな映像装置の開発と表現形式の美学的考察	2003年～2004年
科学研究費補助金 (基礎研究(B)) 映像創造学習を支援する対話型メディア環境の開発 (研究分担者)	2004年～2006年
科学研究費補助金 (基礎研究(C)) メディアアートと脳科学の融合	2009年～2011年
科学研究費補助金 (基礎研究(C)) 鑑賞者の情動反応に基づくメディアアート表現の可能性の探求	2012年～2014年

■ 主要な担当授業科目

[大 学] 映像論、メディアアート論、アニメゲーム研究、情報メディア演習、情報メディア応用演習など

国内外の大学と協同し、インタラクティブな芸術表現の研究・制作を展開する

コンピュータに代表される新しい情報技術が次々と生まれている現代において、それらの特性をふまえた上で新しい芸術やデザインの可能性を探求しています。

特に焦点を当てているのは、メディアアートです。通常、芸術作品は一方通行的に「見る」ものが多いのですが、私が研究対象としているのは、「見て参加できる」作品、インタラクティブ性 (観客参加性) のある芸術です。とりわけメディアアートと脳神経科学を融合することで、芸術と科学の相方に有益な成果をもたらすことにチャレンジしています。こうした、まったく新しい芸術表現の可能性を追究していきたいと考えています。

日本、フランス、スイスから選ばれたメディアアートの祭典、ジュアール展の企画・運営を担当

日本 (京都)、フランス (パリ)、スイス (ジュネーブ) の学生によるメディアアート作品の



選抜展「JOUABLE (ジュアール) 展」を、パリ第8大学の研究者らと共に運営しました。パリ展には共同プロデュースした作品も出品しています。

また、2003年の「同志社ローム記念館」開館記念イベントとして開催された京都展では、本学科の学生や京都の芸術系大学の学生、研究生、そしてフランスやスイスの学生から選抜されたメディアアート作品を集め、総合的なプロデュースを担当しました。**芸術と科学の融合をめざして**

現在は、メディアアートと脳神経科学を融合するアプローチによって、光や音の体験がヒトにもたらす情動反応を実証実験的に探ろうとする試みを行っています。2010年に京都国立近代美術館において展示した作品「光・音・脳」で

は、光と音の充満する特殊な環境に身を置いた鑑賞者に対し、脳血流測定装置による前頭葉の血中ヘモグロビン濃度の測定を行い、測定結果を瞬時に解析するとともに、血流の変化に応じて生成変化する色や音を鑑賞者にフィードバックする装置を開発しました。これは鑑賞者の快や不快といった情動反応を用いた芸術作品です。また同時に、この体



験を通じて得られたデータは、脳神経科学や医療に関わる新たな知見を深めるための実験を兼ねています。

BOOK

◀メディアアートの全体像を明らかにする、日本初の体系的な本「メディアアートの教科書」を出版しました。